

父親の子育ての参加の仕方って…?

今回のテーマは父親の育児参加についてです。ここ数十年で父親が育児に参加する事があたり前のようになり、“育メン”などと呼ばれるようになってきました。私も家に帰ると父親になります。世に語られる“育メン”にはほど遠く、数多く失敗をしています。

先日、家族で末広中央公園に行くと遊具の中にあるのは、全員お父さんで遊具の周りには腕組みしたお母さんが子どもと父を参観する(父の事は見てないか〜)光景に遭遇しました。私もその流れに乗ろうと我が子に「おいで〜父ちゃんと滑り台しよう!」と誘うと子「イヤ〜お母さんと!」結局、私は滑り台を一人ですべり、子と母の滑る姿を「いいね〜」と見送りました。これが我が家の父です。

ここで、『子育て父親の出番』坂本光男著の中にある父親の子育てのポイントを紹介します。年齢別に15歳までのポイントが記載されていました。参考までに。



【0歳から3歳まで】

- ① 父と子の体の触れ合いを大切にする
- ② 生活のけじめをつけさせる事に気をつかう
- ③ 子どもの話の上手な聞き役になる。

【4歳から9歳まで】

- ① 手伝い、仕事をさせる中で、できるだけよい点を見つけ出し、褒めてやる
- ② 納得させる叱り方で是非を教える
- ③ 身近な事を通して性意識を正しく育てる

【10歳から14歳、15歳まで】

- ① 生活上のすべてを納得づくで進めるようにする
- ② 親の生活実態や苦勞を事実に基づいて教え、子の将来も語り合う。
- ③ 男女交際のあり方、性にかかわる問題などを、親の経験にもとづいて話してやる。

『子育て父親の出番』坂本光男著より

このように各年齢ごとの父親の役割をみると、“そうかあ〜父親は一生父親か〜長く続くなあ〜今の失敗はまあええわ〜”なんて思えました。忙しい日々ですが、時々立ち止まって子どもの成長と子育てポイントを確認しながら過ごしたいですね。